

# 江戸時代（2）

001 仕える大名家を失った武士を何というか

浪人（牢人）

002 将軍の側近で、将軍の命令を老中らに伝える役職は何か

側用人

003 度重なる火事に対応するため、徳川吉宗が設置したものは何か

町火消

004 徳川吉宗が設置した、民衆の意見や進言を投書させ集める箱は何か

目安箱

005 将軍家に跡継ぎがなかったときに備えて徳川吉宗が設置した家は何か

御三卿

006 江戸時代の外交文書に用いられた将軍の肩書きは何か

大君（日本国大君）

007 江戸時代の幕領だった都市のうち、特に規模の大きい町をまとめて何というか

三都

008 政治の中心としての江戸を表す語は何か

将軍のおひざ元

009 商業の中心としての大坂を表す語は何か

天下の台所

010 政治の中心の江戸に対し、文化・経済の中心である大坂・京都周辺を指す語は何か

上方

011 各藩が年貢米や特産物を取引するために主に大坂に設置したものは何か

蔵屋敷

012 江戸時代に同業の商人が結成した組合は何か

株仲間

013 幕府の御用商人となった三井高利が江戸に開いた呉服店は何か

越後屋（三越）

014 江戸を起点に全国との交通の基幹として整備された主要な道は何か

五街道

015 水戸街道、北国道、長崎街道など主要街道を補完する道で、幕府によって管理されたものは何か

脇街道（脇往還）

- 
- 016 街道に約4kmおきに目印として築かれたものは何か
- 
- 一里塚
- 
- 017 街道の途中に設けられた宿泊施設や早馬などが整備された場所は何か
- 
- 宿場
- 
- 018 大名や旗本の宿泊施設は何か
- 
- 本陣
- 
- 019 一般の旅人のために作られた宿泊施設は何か
- 
- 旅籠（はたご）
- 
- 020 文書や荷物を届けるために街道ごとに整備された制度は何か
- 
- 飛脚
- 
- 021 東北地方から太平洋を南下し、銚子から利根川を經由して江戸にいたる航路は何か
- 
- 東回り航路（東廻り海運）
- 
- 022 東北地方から日本海を南下し、下関から瀬戸内海を經由して大坂、江戸へ至る航路は何か
- 
- 西回り航路
- 
- 023 江戸と大坂を結ぶ航路は何か
- 
- 南海路
- 
- 024 江戸と大坂を結ぶ航路で用いられた、酒以外の品目を輸送する船は何か
- 
- 菱垣廻船
- 
- 025 江戸と大坂を結ぶ航路で用いられた、酒を中心に輸送する船は何か
- 
- 樽廻船
- 
- 026 大坂から瀬戸内海を經由して日本海に出て、酒田や松前との間を航行した船は何か
- 
- 北前船
- 
- 027 江戸時代に普及した、先端が鉄製で2つ～5つに分かれた農地を掘り起こす道具は何か
- 
- 備中ぐわ
- 
- 028 江戸時代に普及した、くし状の歯が突き出した脱穀のための道具は何か
- 
- 千歯こき
- 
- 029 風のもみ殻やごみを吹き飛ばし、収穫物を選別する道具は何か
- 
- 唐箕（とうみ）
- 
- 030 農家がお金を出して購入した肥料を何というか
- 
- 金肥
- 
- 031 アブラナや綿の実から作られた肥料は何か
- 
- 油かす
-

032 おもにいわしを乾燥させて作った肥料は何か

干鰯 (ほしか)

033 百姓一揆に際し、リーダーを隠すための署名として書かれたのは何か

傘連判状

034 江戸時代に都市部で商人や役人の屋敷などを町人が襲ったできごとは何か

打ち壊し

035 商人から原材料を借り、生産者が各自の自宅で生産する分業体制は何か

問屋製家内工業

036 商人が労働者を1カ所に集め製品をつくる分業体制は何か

工場制手工業 (マニユ  
ファクチュア)

037 桐生で生産された織物は何か

絹織物

038 久留米・伊予・備後・伊勢崎などでさかんに生産された織物は何か

綿織物

039 小千谷で生産された織物は何か

麻織物

040 儒学の一派で、幕府によって公式の学問とされたのは何か

朱子学

041 儒学の一派で、幕府批判につながり規制されたのは何か

陽明学

042 万葉集や古事記など日本の古典を研究する学問は何か

国学

043 オランダ語を通じて学ばれたヨーロッパの学問は何か

蘭学

044 南アメリカから琉球に伝わり、青木昆陽が栽培法を研究した作物は何か

甘藷 (サツマイモ)

045 各藩が藩士の子弟を教育するために建てた学校は何か

藩校

046 江戸時代に町人の子弟に学問を教えた施設は何か

寺子屋

047 江戸時代の初等教育で民衆が学んだものを指す語は何か

読み・書き・そろばん

048 連歌の発句から生まれた新たな定型詩は何か

俳諧

049 和歌に言葉遊びや世相への皮肉を盛り込んだ定型詩は何か

狂歌

050 連歌の付句（七七に合わせた五七五を読む）が独立した定型詩は何か

川柳

051 江戸時代に書かれた現世を舞台とした娯楽小説は何か

浮世草子

052 三味線の伴奏に合わせて人形遣いが人形を操る芸能は何か

人形浄瑠璃

053 出雲阿国の踊りから発展し、江戸時代に完成した舞台芸術は何か

歌舞伎

054 元禄時代に始まった大衆芸能の劇場は何か

寄席

055 庶民的な風俗画で、とくに版画として量産された絵は何か

浮世絵

056 化政文化期に作られた多色刷りの版画は何か

錦絵

057 喜多川歌麿が有名な、女性を題材に描いた浮世絵は何か

美人画

058 東洲斎写楽が有名な、歌舞伎を題材にした浮世絵は何か

役者絵

059 五街道の起点となったのはどこか

日本橋

060 江戸から京都に至る五街道の1つは何か

東海道

061 江戸から北上し、軽井沢・諏訪を経て草津で東海道に合流する五街道の1つは何か

中山道

062 江戸から甲府を経て、下諏訪まで至る五街道の1つは何か

甲州街道（甲州道中）

063 江戸から東照宮のある日光を結ぶ五街道の1つは何か

日光街道（日光道中）

064 江戸から福島県の白河まで、さらに仙台・盛岡・蝦夷地に至る五街道の1つは何か

奥州街道 (奥州道中)

065 東海道を通過して江戸を出入りする者を取り締まった関所はどこか

箱根

066 橋を架けたり船で渡ったりすることが禁じられた東海道の難所はどこか

大井川 (安倍川)

067 東海道の京都側、西の起点となる橋はどこか

三条大橋

068 諸藩の蔵屋敷が集中し、天下の台所とよばれたのはどこか

大坂 (大阪)

069 最上川河口に位置し、北前船の拠点となった港町はどこか

酒田

070 絹織物の生産で京都 (西陣織) と並び有名な上野国 (群馬県) の町はどこか

桐生

071 利根川の水運としょうゆの生産で栄えた下総国 (千葉県) の町はどこか

野田

072 江戸時代に日本一の酒造地帯となったのはどこか

灘

073 売薬業者を保護し、全国的に薬売りが有名となった町はどこか

富山

074 1707年 (宝永4年) の南海トラフ地震の1ヶ月後に大噴火を起こした山はどこか

富士山

075 1783年 (天明3年) に大噴火し、天明の大飢饉の一因となった山はどこか

浅間山

076 大日本史を編纂した徳川光圀が藩主を務めた藩はどこか

水戸藩

077 林羅山が建てた孔子をまつる聖堂で、林家の私塾もあったのはどこか

湯島聖堂

078 徳川吉宗が将軍になる前に藩主を務めていた藩はどこか

紀州藩

079 享保の改革で江戸に設置された無料の医療施設は何か

小石川養生所

080 朱子学を学ぶための幕府直轄の学問所として設置されたのはどこか

昌平坂学問所

081 水戸藩の設置した藩校はどこか

弘道館

082 長州藩の設置した藩校はどこか

明倫館

083 田沼意次が干拓を行った湖はどこか

印旛沼 (手賀沼)

084 近藤重蔵が日本国領土の木柱を建てた島はどこか

択捉島

085 間宮林蔵が島であることを確認したのはどこか

樺太

086 シーボルトが長崎に設置した医学塾兼診療所はどこか

鳴滝塾

087 蘭学者緒方洪庵が大阪に開いた私塾は何か

適塾 (適々斎塾)

088 おかげ参りと称して集団で参詣された神社はどこか

伊勢神宮

089 江戸幕府第4代将軍は誰か

徳川家綱

090 水戸藩第2代藩主で、中納言の別名「黄門」で知られるのは誰か

徳川光圀

091 1651年に慶安の変を起こしたのは誰か

由井正雪

092 江戸幕府第5代将軍は誰か

徳川綱吉

093 徳川綱吉の側用人として大老格となり、幕政を主導したのは誰か

柳沢吉保

094 江戸幕府第6代将軍は誰か

徳川家宣

095 江戸幕府第7代将軍は誰か

徳川家継

096 学者として幕政に関わり、正徳の治を主導したのは誰か

新井白石

097 俳諧を完成し、紀行文「おくのほそ道」を書いたのは誰か

松尾芭蕉

098 「日本永代蔵」「世間胸算用」などの浮世草子を書いたのは誰か

井原西鶴

099 「曾根崎心中」「国性爺合戦」などの人形浄瑠璃の脚本を書いたのは誰か

近松門左衛門

100 「風神雷神図」を描いた江戸時代の画家は誰か

俵屋宗達

101 「見返り美人図」を描き、浮世絵の創始者とされるのは誰か

菱川師宣

102 江戸幕府第8代将軍は誰か

徳川吉宗

103 南町奉行として享保の改革を主導したのは誰か

大岡忠相

104 サツマイモの栽培を研究した蘭学者は誰か

青木昆陽

105 江戸幕府第9代将軍は誰か

徳川家重

106 江戸幕府第10代将軍は誰か

徳川家治

107 第10代将軍の側用人から老中になり、印旛沼の干拓や株仲間の奨励など経済重視の政策を実行したのは誰か

田沼意次

108 江戸幕府第11代将軍は誰か

徳川家斉

109 老中として寛政の改革を主導した白河藩主は誰か

松平定信

110 米沢藩の藩政改革に成功し、ケネディ大統領が尊敬する人物として名を挙げたのは誰か

上杉鷹山（治憲）

111 江戸幕府第12代将軍は誰か

徳川家慶



- 
- 112 老中として天保の改革を主導したのは誰か
- 水野忠邦
- 
- 113 元幕臣で、大坂で反乱を起こしたのは誰か
- 大塩平八郎
- 
- 114 江戸時代中期の歌人で、万葉集から古代日本人の精神を研究したのは誰か
- 賀茂真淵
- 
- 115 古事記の研究から国学を大成したのは誰か
- 本居宣長
- 
- 116 オランダ語の医学書を翻訳し、「解体新書」を著したのは誰か
- 前野良沢・杉田玄白
- 
- 117 江戸時代中期に発明家やコピーライターなどさまざまな分野で才能を発揮した人物は誰か
- 平賀源内
- 
- 118 蝦夷地を探検し、択捉島に日本領であることを示す木柱を建てたのは誰か
- 近藤重蔵
- 
- 119 蝦夷地から樺太を探検し、樺太が島であることをはじめて確認した人物は誰か
- 間宮林蔵
- 
- 120 佐原出身の商人で、全国を測量し「大日本沿海輿地全図」を作成したのは誰か
- 伊能忠敬
- 
- 121 出島のオランダ商館に医師として来日し、医学塾を開いたドイツ人は誰か
- シーボルト
- 
- 122 幕末の大坂で適塾を開き、福沢諭吉らの人材を育てたのは誰か
- 緒方洪庵
- 
- 123 江戸時代中期の俳人・画家で、写実的な作風で芭蕉亡き後の俳諧を復興したのは誰か
- 与謝蕪村
- 
- 124 江戸時代中期の俳人で、句集「おらが春」で知られるのは誰か
- 小林一茶
- 
- 125 「東海道中膝栗毛」の著者で、日本初の職業作家は誰か
- 十返舎一九
- 
- 126 「雨月物語」の作者は誰か
- 上田秋成
- 
- 127 「南総里見八犬伝」の作者は誰か
- 曲亭(滝沢)馬琴
-



- 
- 128 「東海道四谷怪談」の作者は誰か
- 鶴屋南北
- 
- 129 多数の美人画を残した化政文化を代表する浮世絵師は誰か
- 喜多川歌麿
- 
- 130 わずか十ヶ月の活動期間に多くの役者絵を描いた正体不明の浮世絵師は誰か
- 東洲斎写楽
- 
- 131 「富嶽三十六景」で知られる、化政文化を代表する浮世絵師は誰か
- 葛飾北斎
- 
- 132 「東海道五十三次」を描いた、化政文化を代表する浮世絵師は誰か
- 歌川（安藤）広重
- 
- 133 1651年に浪人の救済を訴え倒幕を企てた一味が捕縛された事件は何か
- 慶安の変（由井正雪の乱）
- 
- 134 江戸城の天守が失われる原因となった出来事は何か
- 明暦の大火
- 
- 135 浅間山・岩木山の噴火も一因となった大飢饉は何か
- 天明の飢饉
- 
- 136 1837年に起きた、島原の乱以来200年ぶりの戦いは何か
- 大塩平八郎の乱
- 
- 137 徳川綱吉が発布した、文治政治に基づく法令は何か
- 生類憐れみの令
- 
- 138 新井白石が制定した長崎での貿易を制限する法令は何か
- 海舶互市新例
- 
- 139 江戸時代の3大改革で度々発布された、ぜいたくを禁止する法令は何か
- 儉約令
- 
- 140 享保の改革で施行された、石高の低い下級武士を役人として取り立てるために在職中のみ石高を補う制度は何か
- 足高の制
- 
- 141 享保の改革で施行された、大名の石高1万石につき100石の米を納める代わりに参勤交代をゆるめる法令は何か
- 上米の制
- 
- 142 享保の改革で作成された、裁判と刑罰の基準に関する判例集は何か
- 公事方御定書
- 
- 143 寛政の改革で施行された、飢饉に備えて大名に穀物の備蓄を義務づける制度は何か
- 困米
-

- 
- 144 寛政の改革で施行された、地方出身の農民を江戸から地方に帰す法令は何か
- 旧里帰農令
- 
- 145 寛政の改革で施行された、古い借金を帳消しし、借金の利率を引き下げる法令は何か
- 棄捐令
- 
- 146 寛政の改革で朱子学を官学としたことを何というか
- 寛政異学の禁
- 
- 147 天保の改革で施行された、経済の自由化を図った法令は何か
- 株仲間解散
- 
- 148 天保の改革で施行された、江戸への農民の流入を規制する法令は何か
- 人返し令
- 
- 149 天保の改革で失敗に終わった、領地を交換し江戸・大坂周辺を幕領とする法令は何か
- 上知令
- 
- 150 徳川光圀が編纂を開始した、神武天皇から後小松天皇まで100人の天皇の歴史書は何か
- 大日本史
- 
- 151 松尾芭蕉が東北地方・北陸地方を旅行した紀行文は何か
- おくのほそ道
- 
- 152 井原西鶴が書いた、町人が金持ちになるための生活を描いた浮世草子は何か
- 日本永代蔵
- 
- 153 菱川師宣が描いた、切手の絵柄としても有名な美人画は何か
- 見返り美人図
- 
- 154 本居宣長が国学を大成させた著書は何か
- 古事記伝
- 
- 155 前野良沢がオランダ語を翻訳し、杉田玄白が清書した医学書は何か
- 解体新書
- 
- 156 十返舎一九が著した、弥次さん喜多さんが旅先で起こす騒動を描いた滑稽本は何か
- 東海道中膝栗毛
- 
- 157 上田秋成が著した、怪異物語の代表は何か
- 雨月物語
- 
- 158 曲亭馬琴が著した、長編伝奇小説は何か
- 南総里見八犬伝
- 
- 159 鶴屋南北が著した、お岩の幽霊が登場する歌舞伎の脚本は何か
- 東海道四谷怪談
-

160 伊能忠敬の作成した日本地図は何か

大日本沿海輿地全図

161 葛飾北斎が描いた、富士山を題材とした浮世絵の連作は何か

富嶽三十六景

162 歌川広重が描いた、宿場町を題材とした浮世絵の連作は何か

東海道五十三次

163 大坂が「天下の台所」とよばれたのはなぜか

諸藩の蔵屋敷が大坂に置かれたから

164 元禄文化の特色を説明せよ

上方を中心にした、華やかで人情味のある町人主体の文化

165 化政文化の特色を説明せよ

江戸を中心にした、世の中を風刺し娯楽的な町人主体の文化

166 徳川吉宗の時代に蘭学が流行したのはなぜか

キリスト教に関係ない漢訳洋書の輸入が解禁されたから

167 寛政異学の禁で朱子学を官学としたのはなぜか

朱子学は身分制度を正当化していたから

168 大塩平八郎の乱が幕府に衝撃を与えたのはなぜか

元幕臣が幕領の大坂で起こした反乱だったから

169 生類憐れみの令が出されたのは何年か

1685年

170 徳川吉宗が将軍になったのは何年か

1716年

171 田沼意次が老中となったのは何年か

1772年

173 松平定信が老中となったのは何年か

1787年

173 大塩平八郎の乱が起こったのは何年か

1837年

174 水野忠邦が天保の改革を始めたのは何年か

1841年

175 4代将軍家綱以降の儒学を重視し、平和な時代を築いた政治は何か

文治政治

176 17世紀末から18世紀初頭に上方で栄えた文化は何か

元禄文化

177 徳川家宣・家継の治世に新井白石が主導した政治は何か

正徳の治

178 徳川吉宗が主導した政治改革は何か

享保の改革

179 松平定信が主導した政治改革は何か

寛政の改革

180 水野忠邦が主導した政治改革は何か

天保の改革

181 19世紀初めに江戸で栄えた文化は何か

化政文化

182 生類憐れみの令を出した将軍は誰か

徳川綱吉

183 公事方御定書を定めたのは誰か

徳川吉宗

184 上米の制を定めたのは誰か

徳川吉宗

185 足高の制を定めたのは誰か

徳川吉宗

186 囲米・七分積金を定めたのは誰か

松平定信

187 朱子学を官学とし、昌平坂学問所を設置したのは誰か

松平定信

188 上知令を定めたのは誰か

水野忠邦

189 「解体新書」の原書として翻訳されたオランダ語の書物は何か

ターヘル・アナトミア

190 図の絵の作者と、題名は何か



俵屋宗達「風神雷神  
図」

□ 191 図の絵の作者と、題名は何か



菱川師宣「見返り美人  
図」

□ 192 図の絵の作者は誰か



東洲斎写楽

□ 193 図の絵の作者は誰か



喜多川歌麿

□ 194 図の絵の作者と、題名は何か



葛飾北斎「富嶽三十六  
景」

□ 195 図の絵の作者と、題名は何か



歌川広重「東海道五十  
三次」

次の出来事を時代が古い順に並べよ  
□ 196 【ア：享保の改革 イ：田沼意次の政治 ウ：天保の改革  
エ：寛政の改革】

ア→イ→エ→ウ

次の出来事を時代が古い順に並べよ  
□ 197 【ア：大塩平八郎の乱 イ：正徳の治 ウ：生類憐れみの  
令 エ：天明の大飢饉】

ウ→イ→エ→ア

次の出来事を時代が古い順に並べよ  
□ 198 【ア：上米の制 イ：寛政異学の禁 ウ：上知令 エ：印  
旛沼の干拓】

ア→エ→イ→ウ

次の将軍を就任順に並べよ  
□ 199 ア：徳川家宣 イ：徳川綱吉 ウ：徳川家綱 エ：徳川家  
光】

エ→ウ→イ→ア

次の将軍を就任順に並べよ  
□ 200 【ア：徳川家継 イ：徳川吉宗 ウ：徳川家斉 エ：徳川  
家治】

ア→イ→エ→ウ

---

201 次の人物のうち、元禄文化期に活躍したものをすべて選べ  
【与謝蕪村、小林一茶、松尾芭蕉、本居宣長】

松尾芭蕉

---

202 次の人物のうち、元禄文化期に活躍したものをすべて選べ  
【十返舎一九、近松門左衛門、井原西鶴、曲亭馬琴】

近松門左衛門、井原西  
鶴

---

203 次の人物のうち、化政文化期に活躍したものをすべて選べ  
【歌川広重、俵屋宗達、菱川師宣、葛飾北斎】

歌川広重、葛飾北斎

---

## 江戸時代（2）解答

001	浪人（牢人）	大名家の取り潰しで多くの浪人が生まれ、大坂の陣や島原の乱などに加わった
002	側用人	将軍に近い位置にいる側用人は、柳沢吉保のように権力を持つものもいた、
003	町火消	吉宗と大岡忠相により、いろは48組の町火消しが設置され、江戸の消防を担った
004	目安箱	目安箱の投書を受けて小石川養生所や町火消が設置された
005	御三卿	田安家・一橋家・清水家の御三卿が設置され、のちに田安家・一橋家からは将軍が出た
006	大君（日本国大君）	軍事指揮官としての将軍でなく、日本の主権者としての立場を表すため大君の語が用いられた
007	三都	江戸・大坂・京の三大都市を三都という
008	将軍のおひざ元	将軍以下幕臣と参勤交代で来る各藩主が集まる江戸は政治の中心で、将軍のお膝元とよばれた
009	天下の台所	大坂には各藩の蔵屋敷が置かれ全国の物資がいったん集まり、天下の台所とよばれた
010	上方	上方は古くからの文化・経済の中心で、元禄文化は上方を中心に栄えた
011	蔵屋敷	大坂には各藩の蔵屋敷が置かれ全国の物資がいったん集まり、天下の台所とよばれた
012	株仲間	株仲間は江戸時代初期には禁止されていたが、幕府の収入を増やすために享保の改革で公認された
013	越後屋（三越）	越後屋三井呉服店は定価で現金払いという販売方法で人気を呼び、現在は三越百貨店となっている
014	五街道	東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道の5つを五街道といい、幕府により整備された
015	脇街道（脇往還）	五街道と主要な脇街道は幕府によって整備され、全国の交通網が発展した



016	一里塚	五街道など主要街道には一里（約4km）ごとに一里塚が築かれ、休憩場所として整備された
017	宿場	街道には宿場が整備され、その周辺が宿場町として栄えた
018	本陣	宿場には本陣が設けられ、参勤交代のさいに大名が宿泊した
019	旅籠（はたご）	宿場には旅籠や木賃宿が設けられ、伊勢参りに旅人などが利用した
020	飛脚	飛脚は宿場の間を交代で走り、江戸から京都は最短3日で書状などを届けることができた
021	東回り航路（東廻り海運）	酒田や青森から津軽海峡を越え太平洋を南下する東廻り航路は危険な航路であった
022	西回り航路	江戸への輸送は東回りのほうが短い距離であったが、安全な西回り航路が多く使われた
023	南海路	商業の中心である大坂と大消費地の江戸を結ぶ南海路は多くの船が行き交った
024	菱垣廻船	当初は菱垣廻船が主流であったが、天保の改革で菱垣廻船問屋は解散する
025	樽廻船	江戸時代には酒は生ものであり、専用の船で高速輸送するために樽廻船が作られた
026	北前船	北前船は大坂と東北地方を結び、西回り航路での輸送を担った
027	備中ぐわ	江戸時代には備中ぐわが普及し、農業生産力が向上した
028	千歯こき	千歯こきにより脱穀の効率が飛躍的に向上し、時間を短縮した
029	唐箕（とうみ）	風で収穫物からゴミを吹き飛ばす唐箕は現代でも利用されている
030	金肥	江戸時代には商品作物が流通し、貨幣経済も発展したことから金肥が利用された
031	油かす	菜種や綿の実から油をとったあとの絞りかすが、油かすとして肥料に利用された

032	干鰯（ほしか）	軽くて肥料効果の高い干鰯の流通により、江戸時代の農業生産力は向上した
033	傘連判状	江戸時代の一揆では団結を示すために傘連判状に署名した
034	打ち壊し	大商人や不正をはたらく役人の屋敷を打ち壊して破壊した
035	問屋製家内工業	江戸時代には、問屋制家内工業による農民の副業がさかんになった
036	工場制手工業（マニユファクチュア）	江戸時代後期には繊維・織物業などで工場制手工業が始まった
037	絹織物	桐生織は西陣織と並ぶ高級絹織物として生産された
038	綿織物	縦横に綿糸を織り上げる緋（かすり）は庶民の衣服として量産された
039	麻織物	麻糸を織った小千谷縮や、漂白した晒（さらし）は下着として利用された
040	朱子学	身分制度を正当化する朱子学は幕府によって公式の学問とされた
041	陽明学	陽明学は大塩平八郎など反幕府的な人物がその行動の根拠とした
042	国学	荻生徂徠、賀茂真淵に始まる国学は本居宣長が大成し、のちの尊皇思想に影響を与えた
043	蘭学	ヨーロッパの進んだ医学はオランダ語を通じて学ばれたため、蘭学とよばれた
044	甘藷（サツマイモ）	やせた土地でも栽培できるサツマイモは、江戸時代の飢饉をたびたび救った
045	藩校	武士の子弟が学問や武芸を学んだ藩校の中には、現代まで高校として残るものもある
046	寺子屋	寺院を借りて学問を教えたため、寺子屋とよばれた
047	読み・書き・そろばん	初等教育の読み・書き・そろばんは現代の教育にも残っている

048	俳諧	五七五の十七音からなる俳諧が江戸時代に流行した
049	狂歌	江戸時代後期には政治を皮肉る狂歌が流行した
050	川柳	世相や人情を五七五の十七音で詠む川柳が江戸時代に流行した
051	浮世草子	娯楽小説としての浮世草子が流行し、井原西鶴は人気作家となった
052	人形浄瑠璃	江戸時代には人形浄瑠璃が流行し、近松門左衛門は人気脚本家となった
053	歌舞伎	女性によるかぶき踊りが禁止され、男性が女形となって踊るいまの歌舞伎が生まれた
054	寄席	落語・講談・物真似などの大衆芸能が寄席で演じられた
055	浮世絵	元禄時代に菱川師宣が浮世絵を芸術作品にまで高め、版画により多数が流通した
056	錦絵	浮世絵は版画の技術が向上し、多色刷りの錦絵となった
057	美人画	喜多川歌麿は美人画の作者として名高い
058	役者絵	東洲斎写楽は役者絵の作者として名高い
059	日本橋	江戸城の東側、日本橋川にかかる日本橋は五街道の起点として江戸一番の繁華街となった
060	東海道	東海道は江戸日本橋を起点に、53の宿場を経て京都三条大橋に至る
061	中山道	中山道は江戸と京都を内陸で結び、大回りだが川を渡る回数が少ないためこちらを通るものも多かった
062	甲州街道（甲州道中）	甲州街道は江戸が攻められた際に親藩である甲府に逃げるため整備され、下諏訪で中山道と合流した
063	日光街道（日光道中）	家康をまつた日光東照宮に将軍が参詣するために、日光街道が整備された

064	奥州街道（奥州道中）	奥州街道は宇都宮までは日光街道と共通で、東北地方諸藩の参勤交代に利用された
065	箱根	箱根関は「入鉄砲と出女」を厳しく取り締まった
066	大井川（安倍川）	大井川や安倍川では江戸の防衛のため架橋が禁止され、人足に担いでもらい川を渡る必要があった
067	三条大橋	京都の三条大橋からさらに大坂高麗橋までを東海道に含めると、五十七次となる
068	大坂（大阪）	大坂には各藩の蔵屋敷が置かれ全国の物資がいったん集まり、天下の台所とよばれた
069	酒田	西回り航路の起点となった酒田は、「西の堺、東の酒田」と並び称されるほど栄えた
070	桐生	桐生織は西陣織と並ぶ高級絹織物として生産された
071	野田	野田はしょうゆ生産がさかんで、江戸時代のしょうゆ業者が現在のキッコーマン社となっている
072	灘	神戸の灘で作られた酒は、樽廻船によって江戸に運ばれた
073	富山	富山藩では薬売りに全国を通行できる手形を与え、売薬業を保護した
074	富士山	1707年の宝永噴火が富士山の最後の噴火で、関東地方に大きな被害を与えた
075	浅間山	1783年には浅間山と岩木山が噴火し、東北地方で天明の大飢饉が発生した
076	水戸藩	徳川光圀は「水戸黄門」の異名で知られる
077	湯島聖堂	湯島聖堂の跡地は現在の東京医科歯科大学湯島キャンパスにあたる
078	紀州藩	7代将軍家継は8歳で亡くなり、紀州藩徳川家から吉宗が8代将軍として迎えられた
079	小石川養生所	「赤ひげ先生」とよばれた医師小川笙船が目安箱に投書し、小石川養生所が設置された

080	昌平坂学問所	寛政異学の禁により、朱子学を官学とし湯島聖堂を昌平坂学問所に改めた
081	弘道館	水戸藩の弘道館は徳川斉昭によって建てられ、水戸学の舞台となった
082	明倫館	長州藩の明倫館は水戸の弘道館、岡山の開谷学校と並ぶ日本三大学府の1つであった
083	印旛沼（手賀沼）	利根川下流の印旛沼はたびたび水害を起こしたため、干拓が計画された
084	択捉島	近藤重蔵は択捉・国後を探検し、札幌地域の開発を進言した
085	樺太	樺太と大陸の間の海峡には間宮海峡の名が残る
086	鳴滝塾	長崎の鳴滝塾では高野長英らの塾生が西洋医学を学んだ
087	適塾（適々斎塾）	緒方洪庵の開いた適塾では福沢諭吉・大村益次郎ら多くの幕末に活躍する人材が学んだ
088	伊勢神宮	60年に一度のおかげ年には数百万人のお伊勢参りが参詣した
089	徳川家綱	家光の子である4代将軍家綱の時代に武断政治から文治政治へと移行していった
090	徳川光圀	徳川光圀は大日本史を編纂したほか、日本ではじめてラーメンを作ったことも知られる
091	由井正雪	由井正雪は浪人の救済を求め幕府転覆を企てたが、直前で密告され失敗した
092	徳川綱吉	4代将軍家綱には子がなく、弟の綱吉が第5代将軍となった
093	柳沢吉保	綱吉の治世の後半は柳沢吉保ら側用人を重用した
094	徳川家宣	5代将軍綱吉には子がなく、綱吉の兄の子である家宣が跡を継いだ
095	徳川家継	6代将軍家宣の跡を継いだ家継は、わずか4歳で将軍となり、8歳で亡くなった

096	新井白石	家宣・家継に仕えた新井白石は、正徳の治と呼ばれる政治改革を主導した
097	松尾芭蕉	松尾芭蕉により連歌の発句が俳諧として完成し、現代の俳句につながった
098	井原西鶴	井原西鶴は元禄文化を代表する浮世草子の作者で、「日本永代蔵」「世間胸算用」などの作品がある
099	近松門左衛門	近松門左衛門は元禄文化を代表する人形浄瑠璃の脚本家で、「国性爺合戦」などの作品がある
100	俵屋宗達	俵屋宗達は元禄文化を代表する日本画家で、「風神雷神図」を描いた
101	菱川師宣	菱川師宣は本の挿絵でしかなかった浮世絵を芸術の域に高め、「見返り美人図」を描いた
102	徳川吉宗	7代将軍家継は8歳で亡くなり、紀州藩徳川家から吉宗が8代将軍として迎えられた
103	大岡忠相	大岡忠相は徳川吉宗の治世に南町奉行を務め、「大岡越前」としてドラマ化もされた
104	青木昆陽	青木昆陽は徳川吉宗の命令で甘藷（サツマイモ）の栽培を研究し、甘藷先生とよばれた
105	徳川家重	吉宗の跡を継いだ9代家重は障害がありながらも将軍を務めた
106	徳川家治	10代将軍家治は老中らに政治を任せ、将棋など趣味に没頭した
107	田沼意次	田沼意次の政治は金権政治との批判も多かったが、近年は再評価されている
108	徳川家斉	一橋家から将軍となった家斉は50年にわたって将軍を務め、松平定信を老中に起用した
109	松平定信	松平定信は白河藩主としては名君であったが、寛政の改革については失敗に終わった
110	上杉鷹山（治憲）	上杉鷹山は米沢藩の財政を立て直し、「成せばなる 成さねばならぬ 何事も」の歌でも知られる
111	徳川家慶	家慶は水野忠邦を取り立て、天保の改革を行った

112	水野忠邦	水野忠邦は12代将軍家慶の治世に天保の改革に乗り出すが失敗した
113	大塩平八郎	天保の飢饉に際し、幕府と大商人への怒りを募らせた大塩は、1837年に反乱を起こす
114	賀茂真淵	賀茂真淵は朱子学を否定し、古代日本人の精神性を研究した
115	本居宣長	本居宣長は「古事記伝」を著し、賀茂真淵から始まった国学を大成した
116	前野良沢・杉田玄白	前野良沢がオランダ語を翻訳し、杉田玄白が清書することで「解体新書」が著された
117	平賀源内	平賀源内は気球や竹とんぼを発明したり、土用丑の日のうなぎを宣伝したことで知られる
118	近藤重蔵	近藤重蔵は択捉・国後を探検し、札幌地域の開発を進言した
119	間宮林蔵	樺太と大陸の間の海峡には間宮海峡の名が残る
120	伊能忠敬	伊能忠敬の日本地図は忠敬の死後に完成した
121	シーボルト	シーボルトは医学教育に貢献したが、日本地図を海外に持ち出した罪で追放処分となった
122	緒方洪庵	緒方洪庵の適塾で蘭学を学んだ人材には、福沢諭吉や大村益次郎がいる
123	与謝蕪村	与謝蕪村の絵画的・写実的な俳句としては「菜の花や月は東に日は西に」などが有名
124	小林一茶	小林一茶の俳句は弱者の視点からの世俗的な句で「やせ蛙負けるな一茶これにあり」などが有名
125	十返舎一九	一九が作家の収入だけで生活できたのは、江戸時代の識字率の向上を示している
126	上田秋成	上田秋成の雨月物語は古典の影響を受けない新たな作風の怪異物語として知られる
127	曲亭（滝沢）馬琴	南総里見八犬伝は現代のアニメやゲームに多くの影響を残している



128	鶴屋南北	お岩が幽霊となって恨みを晴らす四谷怪談の物語は鶴屋南北が歌舞伎の脚本として書いた
129	喜多川歌麿	喜多川歌麿は「寛政三美人」「ポッピンを吹く娘」など多くの美人画を残した
130	東洲斎写楽	役者絵で知られる東洲斎写楽の素性は謎とされている
131	葛飾北斎	葛飾北斎の富嶽三十六景は、ヨーロッパの美術にも影響を与えた
132	歌川（安藤）広重	歌川広重の東海道五十三次は、ヨーロッパの美術にも影響を与えた
133	慶安の変（由井正雪の乱）	由井正雪は浪人の救済を求め幕府転覆を企てたが、直前で密告され失敗した
134	明暦の大火	1657年に起きた明暦の大火により江戸市街地の大半が焼け、江戸郊外の開発が進んだ
135	天明の飢饉	1782年から88年にかけて、冷害や天災が重なり、数十万人が餓死する天明の飢饉が起きた
136	大塩平八郎の乱	天保の飢饉に際し、幕府と大商人への怒りを募らせた大塩は、1837年に反乱を起こす
137	生類憐れみの令	徳川綱吉による生類憐れみの令は儒教に基づいた政策として再評価されている
138	海舶互市新例	新井白石は貿易赤字を減らすために、長崎での貿易額を制限した
139	儉約令	儉約令は特に天保の改革のものが厳しく、寄席や歌舞伎が規制された
140	足高の制	足高の制により大岡忠相が町奉行に取り立てられた
141	上米の制	上米の制により参勤交代での江戸にいる期間は半年に短縮された
142	公事方御定書	公事方御定書の制定により、刑罰の基準が明文化された
143	困米	困米と同時に江戸の町では七分積金が命じられ、物価高騰時の救済活動に用いられた

144	旧里帰農令	農業生産力を高め江戸の人口を減らすために、寛政の改革では旧里帰農令が施行された
145	棄捐令	江戸在住の旗本・御家人は借金に苦しむ者が多く、たびたび棄捐令が発布された
146	寛政異学の禁	寛政異学の禁により、朱子学を官学とし湯島聖堂を昌平坂学問所に改めた
147	株仲間解散	天保の改革で株仲間解散を命じたが、経済の混乱を招いた
148	人返し令	農業生産力を高め江戸の人口を減らすために、天保の改革では人返し令が施行された
149	上知令	上知令は領地を交換する大名や旗本の反対を受け撤回され、水野忠邦は失脚した
150	大日本史	1657年に徳川光圀が編纂を開始した大日本史は、1906年に完成した
151	おくのほそ道	松尾芭蕉は東北・北陸地方を旅し最後は岐阜県の大垣に至る旅を「おくのほそ道」に俳句とともに記した
152	日本永代蔵	西鶴の浮世草子には、大晦日に借金取りとの駆け引きを描いた「世間胸算用」もある
153	見返り美人図	見返り美人図は菱川師宣の肉筆画で、記念切手の絵柄としても有名である
154	古事記伝	古事記の解釈および古代日本の研究は本居宣長の古事記伝に大きな影響を受けた
155	解体新書	前野良沢がオランダ語を翻訳し、杉田玄白が清書することで「解体新書」が著された
156	東海道中膝栗毛	東海道中膝栗毛は当時の東海道旅行の資料となるとともに、「弥次喜多もの」というジャンルの創始となった
157	雨月物語	上田秋成の雨月物語は古典の影響を受けない新たな作風の怪異物語として知られる
158	南総里見八犬伝	南総里見八犬伝は現代のアニメやゲームに多くの影響を残している
159	東海道四谷怪談	お岩が幽霊となって恨みを晴らす四谷怪談の物語は鶴屋南北が歌舞伎の脚本として書いた

160	大日本沿海輿地全図	伊能忠敬の日本地図は忠敬の死後に完成した
161	富嶽三十六景	葛飾北斎の富嶽三十六景は、ヨーロッパの美術にも影響を与えた
162	東海道五十三次	歌川広重の東海道五十三次は、ヨーロッパの美術にも影響を与えた
163	諸藩の蔵屋敷が大坂に置かれたから	大坂には各藩の蔵屋敷が置かれ全国の物資がいったん集まり、天下の台所とよばれた
164	上方を中心にした、華やかで人情味のある町人主体の文化	元禄時代（17世紀末～18世紀初）の上方を中心に栄えた文化を元禄文化という
165	江戸を中心にした、世の中を風刺し娯楽的な町人主体の文化	文化・文政年間（19世紀初）の江戸を中心に栄えた文化を化政文化という
166	キリスト教に関係ない漢訳洋書の輸入が解禁されたから	享保の改革で洋書の輸入が解禁され、蘭学が流行した
167	朱子学は身分制度を正当化していたから	身分制度を正当化する朱子学は幕府によって公式の学問とされた
168	元幕臣が幕領の大坂で起こした反乱だったから	大塩の乱は島原の乱以来200年ぶりに旗本が出兵する戦となった
169	1685年	生類憐れみの令は1685年以降、徳川綱吉の治世に出されたいくつかの法令の総称
170	1716年	7代将軍家継は8歳で亡くなり、紀州藩徳川家から吉宗が8代将軍として迎えられた
171	1772年	田沼意次は10代将軍家治の側用人から老中に取り立てられた
173	1787年	松平定信は白河藩主としては名君であったが、寛政の改革については失敗に終わった
173	1837年	大塩の乱は島原の乱以来200年ぶりに旗本が出兵する戦となった
174	1841年	大御所の地位にあった徳川家斉が死去し、水野忠邦による天保の改革が始まった
175	文治政治	3代将軍家光までの治世は武断政治といい、家綱以降は文治政治という

176	元禄文化	元禄時代（17世紀末～18世紀初）の上方を中心に栄えた文化を元禄文化という
177	正徳の治	正徳年間（1711～16）に新井白石が主導した政治を正徳の治という
178	享保の改革	8代将軍吉宗による政治を享保の改革という
179	寛政の改革	11代将軍家斉の時代に、老中松平定信が主導した政治を寛政の改革という
180	天保の改革	12代将軍家慶の時代に、老中水野忠邦が主導した政治を天保の改革という
181	化政文化	文化・文政年間（19世紀初）の江戸を中心に栄えた文化を化政文化という
182	徳川綱吉	生類憐れみの令は1685年以降、徳川綱吉の治世に出されたいくつかの法令の総称
183	徳川吉宗	公事方御定書は享保の改革の一環として、徳川吉宗によって定められた
184	徳川吉宗	上米は享保の改革の一環として、徳川吉宗によって定められた
185	徳川吉宗	足高の制は享保の改革の一環として、徳川吉宗によって定められた
186	松平定信	囲米・七分積金は寛政の改革の一環として、松平定信によって定められた
187	松平定信	寛政異学の禁により、朱子学を官学とし湯島聖堂を昌平坂学問所に改めた
188	水野忠邦	上知令は領地を交換する大名や旗本の反対を受け撤回され、水野忠邦は失脚した
189	ターヘル・アナトミア	解体新書にはターヘル・アナトミアだけでなく複数の医学書の翻訳が記載されている
190	俵屋宗達「風神雷神図」	図は俵屋宗達の屏風画「風神雷神図」である
191	菱川師宣「見返り美人図」	図は菱川師宣の浮世絵「見返り美人図」である

192	東洲斎写楽	図は東洲斎写楽による役者絵である
193	喜多川歌麿	図は喜多川歌麿による美人画「ポッピンを吹く娘」
194	葛飾北斎「富嶽三十六景」	図は葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」の神奈川沖浪裏である
195	歌川広重「東海道五十三次」	図は歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」の日本橋である
196	ア→イ→エ→ウ	ア（1716年）→イ（1772年）→エ（1787年）→ウ（1841年）
197	ウ→イ→エ→ア	ウ（1685年）→イ（1711年）→エ（1782年）→ア（1837年）
198	ア→エ→イ→ウ	ア（享保の改革）→エ（田沼意次）→イ（寛政の改革）→ウ（天保の改革）
199	エ→ウ→イ→ア	エ（3代目）→ウ（4代目）→イ（5代目）→ア（6代目）
200	ア→イ→エ→ウ	ア（7代目）→イ（8代目）→エ（10代目）→ウ（11代目）
201	松尾芭蕉	松尾芭蕉は17世紀後半（元禄文化）、その他3人は18世紀後半の人物
202	近松門左衛門、井原西鶴	近松と西鶴は17世紀後半～18世紀初め（元禄文化）、他の2人は19世紀初めの人物
203	歌川広重、葛飾北斎	広重と北斎は18世紀末～19世紀初め（化政文化）、他の2人は17世紀の人物